

# 森木 からあ

# Imagin 21

「イマジン21」第8号 / 平成15年12月1日発行 (年2回 春秋発行)

# 樹 が育ち

# そ

リレー連載 世界遺産  
奈良文学散歩 ③

Essay 印刷文化逍遙 ⑧

おおさか  
探索 通天閣

報告 アイガス  
IGAS 2003

訪問 地域とボランティア  
法<sup>NPO</sup>人「朱雀」

大和の  
伝統行事 除夜の鐘

付録 現代印刷基礎知識

タイ国などでは、エビの養殖の為、マングローブが減少し、きれいな海岸を維持するのがだんだん難しくなっていると、ある講演会で聴きました。

人間は、自然界のもたらすあらゆるものを消費し、利用し生活しているのですが、人間のエゴが環境を破壊し国によって差があるとはいえ、自然界との向きあい方が大変重要になっていることは、万人の承知しているところです。

今回のIMAGINでは、南北朝時代の春日山原始林 - 山木枯槁をめぐって - ということで、長坂成行教授に書いていただきました。

人口が36万人を越す奈良市は、すぐそばに世界文化遺産である春日の原始林があるのですが、このような所は世界をみても例がないと思います。

それは、人間と自然との共生がうまくマッチした、古代からの奈良人のすばらしさと思います。奈良にとって、保存と開発は永遠のテーマですが、信仰を含めた自然へのWORSHIPを奈良から世界中に広めたいものです。

代表取締役社長 近東 宏光

# Imagin21

## わたしたちができる環境づくり

自然との共生を図りながら

限りある資源を大切に使い環境を守っていく

私たちは時代に役立つ企業であり続けたいと考えます



JQA-EM2283  
本社・本社工場

編集 / 制作 / 発行

共同精版印刷株式会社

本社：〒630-8013 奈良市三條大路2丁目2-6

TEL 0742-33-1221 FAX 0742-33-7035

大阪支社：〒542-0082 大阪市中央区島之内1丁目12-3

TEL 06-6271-7951 FAX 06-6271-7954

東京支社：〒116-0014 東京都荒川区東日暮里5丁目6-4

TEL 03-3802-4741 FAX 03-3802-4740

本誌に対するご感想、ご要望などがございましたら、上記本社内「イマジン21」編集部までお寄せください。

世界遺産  
奈良文学散歩

|リレ - 連載|

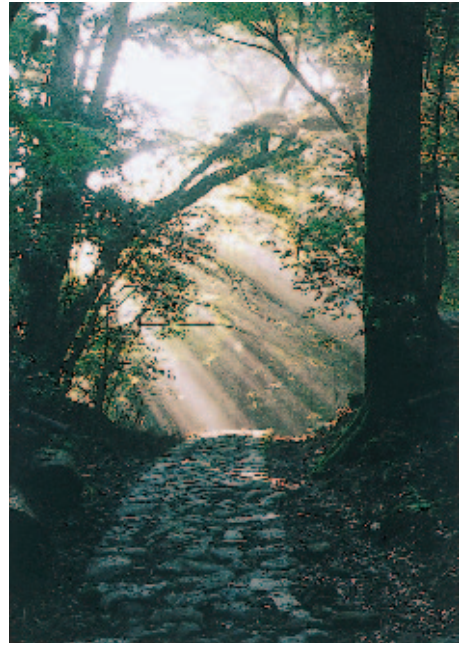
3

南北朝時代の春日山原生林

山木枯槁<sup>ここう</sup>をめぐって



写真 総務部：門口 誠一



【観応年間の南北朝抗争】

観応三(一三三二)年と言えは、南北朝内乱のまっただ中で、南朝の年号でいえば正平七年。その前年、南朝との和睦(正平の一統)を結んだ將軍足利尊氏は、弟直義との抗争のため関東に下向しており、京都

は子義詮(よしかず)が守るのみ、その空隙をついて南朝方は後村上天皇を擁して大阪の住吉から八幡(八幡市)へ進攻、いったんは京都を制し義詮を近江へ追い落とすほどの力をみせた。しかし勢力を盛り返した義詮は、この年三月二十一日、八幡の南軍を攻め、宇治・山崎でも優勢であった。五月十一日、南軍の八幡は陥落、後村上天皇は奈良を通り、宇智郡から賀名生の南朝の御所へのがれた。その直前、四月下旬ころ、春日社の背後の山々の木々が突如枯れ出したのである。

【春日山原生林】

奈良公園の東に位置する山間部、御蓋山(みかさやま)を中心とする一帯に広がる春日山原始林

は、一九五六年、国の天然記念物の指定を受け、近年は春日大社・興福寺・東大寺などと共に世界文化遺産としても登録された。なぎを中心

(かなり手が加えられてはいるが)が存続しているのは、今日的な自然保護の意識だけでなく、古来この一帯が春日大社の神域であり、その樹木は神木であるという信仰に支えられてきたからである。

【春日の山木枯槁】

春日の山木が枯れるという現象は、鎌倉・室町時代の大きなものに限っても十数回発生している。原生林の枯槁という現象が、当時の社会の中でどのように受けとめられたのか、今回は原生林内の散歩ならぬ、南北朝時代の観応三年という年にタイム・スリップして追体験してみよう。

この年四月の山木枯槁についてはいくつかの史料に見えるが、まずは北朝の前太政大臣である洞院公賢(当時六十二歳)の日記『圓太曆』をひもといてみる。五月八日付で春日の神主師俊(かみしらすけ)から、つぎのような報告があった。

一、去る四月二十九日に枯槁を発見、翌日点検したら枯木は五九八一本(もともと葉のない古い枯木は除く)、この他木の三分

の一、四分の一が枯れ始めているものは数え切れない。  
二、五月三日の再調査で二六九七本の枯木を追確認した。

三、この件については文暦(嘉禎)・嘉元年間の前例に準じて社司らが社頭に参籠し一日から折禱を始めた。  
四、興福寺の学僧は唯識論千部の転読(省略した読み方)を三日から開始。  
五、六方衆徒(若手の修学者)は三十頃の転読を四日から始めた。

山木枯槁は京都の要人に報告がもたらされるような重大な事件で、公賢は「もってのほかのことだ。氏族(藤原氏)にとつてこれ以上の驚嘆すべきことはないだろう」と書いている。春日社は藤原氏の守り神であり、その山木枯槁は調査と対処が必要な異常現象といえる。二回の調査で合計八六七本の枯木が認められたという。神人が春日原生林に入り込んで一本ずつかぞえたのか、それとももっとよい方法があったのか興味深いところだが、端数まで記しているところに真剣さがみえて取れ、一方でまた胡散臭さも感じられる。三項以下は、この異変が初回ではなく、一二三〇年代(文暦)・一三〇〇年代(嘉元)に前例があったことを示しており、当時の例に倣い、神官は折禱、興福寺の大衆は經典の読誦をし

て対処したのである。といったことは、枯槁を単なる虫害や旱魃・倒木ととらえたのではないことがうかがえる。

【山木枯槁は何を意味するか】

春日とその周辺の人々が山木枯槁をどのように理解したかは、奈良時代の神護景雲二(七六八)年十月の御託宣がヒントになる。

藤原氏の繁昌と法相宗の護持のために私(春日神)は御笠山に跡を垂れた。未代に神事に違例が生じ、政が受け容れられなくなった時、樹木はたちまちに枯れるだろう。

さすれば私はこの山を去り、天城へ還るものと思え。その時、氏は慎み畏れるべきだ。ただし、お前たちの子孫中臣氏が、精進潔斎し信心をこらし供物を備え七日七夜祈念するならば、ここに還るのである。

この春日の神のお告げの内容は『春日権現験記絵』『圓太曆』『実隆公記』などにみえる周知のもので、中世の人々は春日山木枯槁を、ただちに神意の発現と理解したであろう。興福寺、東金堂の記録である『細々要記』は、四月二十七日夜大雨大風のあと、春日山から神火が出現し北西(または山城の辺から東)へ飛んだと記す。実際に光るものを見たのであろうが、あるいは春日社から神が去りなされたと感じた、興福寺の僧の意識の反映なのかもしれない。法隆寺の『嘉元記』も「春日大明神、御山を御出云々」とする。

【神意に背くものとは】

さて春日の神の心に背くものとは何か。時期から考えて、冒頭にふれたような南北



朝の抗争以外には考えにくい。現に春日社から程遠くない所で記された前述の『嘉元記』は、春日山の樹木が枯れたのは「天下動乱、或は両門主兵乱によつてか」（同年四月二十五日）とする。

南朝方の最後の攻勢ともいへば観応三年五月の八幡攻防は、結局幕府軍が勝利をおさめた。公賢の日記をたどると、彼のもとに山木枯槁の報が届いた直後の、五月十二日の条に八幡は敗北、主上（後村上天皇）以下皆没落、少々は南都（奈良）に留まる。十三日には敗北の人々、南都を通過、とある。十五日にもたらされた情報では、去る十二日後村上天皇が唐招提寺で茶を供され、宇智郡へのがれた由。十七日には南都からの飛脚が後村上天皇敗走のさまを伝えてきた。天皇らしき人は褐の直垂（武家の平服、ここは鎧の下着）を着て兵士の中に混じっていた。馬につける鞍の前輪に、新

しい葛箱を懸けており、これが三種の神器の容器かと推測されたという。

この時の後村上天皇一行の敗走は『太平記』巻三〇（「芳野の主上還幸の事」）にも記事があり、

主上は、古津川（木津川）の端を西に添うて、御馬を早めさせ玉ふころに、備前国の住人松田備中守、備後国の住人宮入道道仙、五百余騎にて追ひ、取り籠め進らせて、雨のふる如く射ける矢には、遁れさせ給はじと御痛はしくぞ見えたりける。されども、天地神明もいまだ棄てはてさせ給はざりけるにや、御鎧の心板・草摺のはづれ、若千の（たくさんの）矢ども立ちしかども、一つも裏をば懸かざりけり。

と、天皇自身にも矢が飛び交う中を敗走したとあるのは、『圓太曆』の記事にかなり近い。

南朝方の敗走は北朝方には慶事であり、抗争の鎮静にともない神は春日へ遷御したといえようか。

### 【山木蘇生のための御神楽】

さてその後、枯れた山木はどうなったのか。五月二十四、神主師俊はこつ報告している。枯木に青葉が付き始めているという噂が十四日にあり、十五日に調べたところ九十六本に及んだ。その後も青葉に回復しているというが、未調査である。



さらに七月八日の報告では、六月二十六日から七月二日まで枯木復活のために神楽を行った。ただし、七月二日の結願の後についての神主の報告は微妙なものである。結願の後、とくに奇瑞のことは見えないという説がある。また枯木に青が戻ったともいう者もいるがまだ点検してない、調査後に報告する、というすっきりしない文面で、何か含むところが感じられる。まだ点検していない、とぬげぬげと書いているあたりは神人の意図的な怠慢とも読み取れる。

この七月八日の報告によれば、神楽の費用のうち一万疋を武家（足利義詮）が、公家が五百疋、不足分三、四千疋は興福寺が負担した、という。このあたりの、負担額の不均衡、とくに肝心の公家が僅かしか寄進していない点が、山木蘇生のすつきりし



ない報告にも響いているのではないだろうか。

ともあれ、いまに残る春日の原生林は、単なる自然林ではなく政治や宗教などとの深いかかりの中で維持されてきた貴重な文化遺産である。神社の背後に広がる山木は、聖なるものとして扱われることが多く、賀茂神社・日吉神社などでも同じような事象が歴史に残る。



長坂 成行 [ながさか しげゆき]

1949年愛知県生れ。名古屋大学大学院博士課程後期満期退学。現在、奈良大学文学部国文学科教授。世界遺産文学概論担当。専攻は日本中世文学、特に軍記物語の研究。編書に『太平記秘伝尽抄1』（東洋文庫）（平凡社）など

# 印刷文化道遙

8



Tadao Kasei

嘉瀬井整夫

1934年京都市に生まれる。1949年より同94年まで印刷産業に従事。奈良県立短期大学（現奈良県立大学）卒業。主著「井伏鱒二私論」「井伏鱒二とその時代」「奈良大和路文学散歩」ほか。文芸評論家。

ポレオン帝政時代に戦時危機のため、すべての産業活動がおさえつけられていた実状を利用して、セシャル老人がやつつけられていた実状を利用して、セシャル老人がやつつけてすっきり商売不振に陥しれていた店であった。そのくらいだから、セシャルはわざわざこの店を買いたらうという気もおこさなかったが、この買い惜しみが先になつた老舗の印刷屋の没落する一因となつたのである。ところで、この一件を知ると、セシャルおやじは、自分の店とコワンテ兄弟の店が競争することになれば、自分はひっこんでその相手をさせよう、とたのしげに考えた。〜



今回も前回に続いてバルザックの『幻滅』について書いてみよう。

その前にすこし寄り道をする。奈良あたりの古書店では、めったにバルザックの本に出会うことはないのだが、先日、行きつけの店で、偶然見つけることができた。それは『浮かれ女盛衰記』という端本で、訳者は寺田透だった。

版元は創元社で、上下セットのうち上巻だけが出ていたのである。それともう一冊あったが、何であつたか忘れてしまった。

結局、保存状態があまりよくなかつたので買わなかつたが、ひよっとすると、後になって後悔するかもわからない。

さて、前回は、『幻滅』に登場する

印刷屋の親方セシャルについて、いろいろのべたが、この親方はパリからすこし離れたところに住み、印刷業を営んでいたのである。

そして、息子も大きくなり、高等学校を卒業するとパリに出て高級印刷術を身につけてもどつてきた。父親のニコラ・セシャルは相変わらず音響家で、それでいて古い機械を器用にこなす根っからの職人であった。

それに対し、新しい技術を身につけて帰ってきた息子のダヴィッド・セシャルは、父親とは対照的に、万事新しいことに関しては抜け目がなかつたが、父親のそうした保守的な考え方には意見が対立した。

だが、父親は年をとっているが商売に関しては老獪で、こけても只では起きないしたたかのものであつた。

また、息子に工場を譲るに際し、息子の想像をこえた法外な値段を吹かけるのであつた。

やはり商売になると、親子といえど



もまるで仇同士で、金のためなら何でもやるといった、人間の一番汚ない面を見せつけるのであつた。バルザックは、そうした人間の内面にうごめく悪魔の素顔を鮮かに描いていて、読者をぐんぐんと引っ張っていくのである。

一方、同じ町に製紙業者のコワンテ兄弟がいて、隙あらばセシャルから仕事を横取りしようとして、ねらつていた。

印刷業に限らず、同業者間の争いは、どこの国も同じで、それこそ食うか食われるかの戦いであつた。

みずからも印刷事業に身を置いていたバルザックは、その辺のところを、きびしく見つけている。

へちやうどそのころ、製紙業者のコワンテ兄弟が、アングレーム在住者に発行されていた活版屋開業証書の第二号を買いつた。証書



商売にせよ何にせよ、油断ほど恐ろしいものはないが、セシャルはこの油断により、後にこのコワンテ兄弟に新聞の権利を売ることになり、すっきり商売の基盤が狂ってしまうのだった。逆にいうと、コワンテ兄弟の狡猾さにすっきりやられてしまふのだが、セシャルにはそのことが見えていなかったのである。

もう一つは、息子のダヴィッドに、金のことばかりを植えてきて、工場存続についてのノウハウを、しっかりと教えてこなかつたことが、うら

目となって顕現するのは、この因業親父に下った神罰であったといえるかも知れない。

さらに指摘できることは、セシャルの通信というか、じぶんのやってきたことが、いかに正しいかということであった。

やはり時代は日進月歩、どんどん変わっていくのである。それにつれて、人脈の見直しや得意先の見直しも必要で、これをおろそかにすると、かならず競争相手に負けてしまう。

その日は、思っていたよりも早くやってくる。それは新聞印刷の権利を、コワンテ兄弟に売ることになったのである。バルザックはそのへんを、とてモリアルに描いている。

〈前略〉新聞を売れって？ そんなことをするくらいなら、印刷道具や開業証を売ったがまだましだ。そこで、息子を破産させないためと理由をつけて、印刷機具類の代価相当の六万フランを要求した。息子がかわいい、息子を守ってやりたい、といった。ぶどう作りは、百姓がその女房をだしにつかうように、息子をだしにつかった。コワンテ兄弟の口から条件を

一つ一つ巧みにいわせて、いやそれは息子の望みどおりだ、いやそれはあいつが望んでおらぬ、と話をすすめたあげ



く、最後に、『ジュールナール・ド・シヤラント』紙の

売価二万二千フランを兄弟からうけとるまでにこぎつけた。そのかわり、タヴィツドは、今後

もつどんな新聞もけつして印刷しないこと、さもなければ、三万フ

ランの損害賠償を払うという契約を結ばねばならぬ結果になった。この新聞売りわたしが、セシャル印刷所の自殺行為となった。(後略)

コワンテ兄弟は、ことば巧みに持ちかけて、遂にセシャル印刷所から、新聞印刷の権利を買い取ってしまったのである。わかりやすくいうと、いま

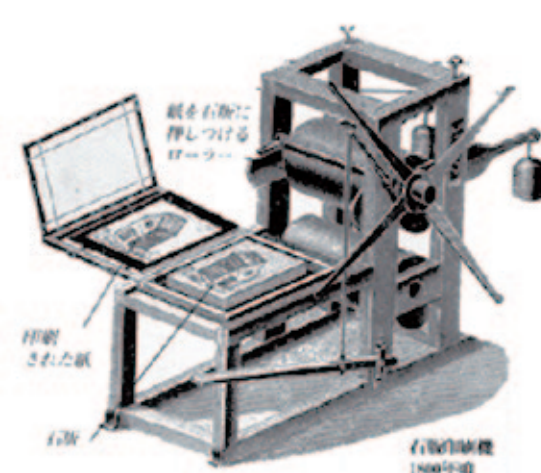
という「乗っ取り」というやつである。あれほど欲深く、ずる賢いセシャルであったのに、なぜコワンテ兄弟にやられてしまったのか。

息子を守るとはいったものの、その実、腹の中ではほとんど息子のことを思っていないに相違ない。

バルザックは、本作品では、とくに人間の心の中に住みついている、性悪な虫といったらよいだろうか、

いいかえると人間の一番弱い部分にふれているといってもよいかもれない。

ともあれ、十九世紀はじめのフランスにおける印刷工場の実態と、そこにうごめく職人たちとそれらを備



う親方たちの生きざまを、これほど生きいきと描いた作品は、数すくないであろう。

もつとも、小説という形ではあるが、ほぼそこに登場する人物は、何らかのモデルもあり、ひとつの時代相を伝えていることはいうまでもない。

そういう意味からいうと、小説ながら、印刷文化の上からみると、得がたい文献資料とな

りえているものと思う。いずれにせよ、人は懸命に生きようとして汗を流し、時にはトラブルに巻き込まれながら、足跡を残していくのである。

終わりに、この作品の背景になっているアングレームの町を、写しとっておこう。

アングレームは、シヤラント川流域の草原にそびえたつ円錐状の砂糖塊のような岩山の頂上に

きすかれた古い町である。この岩山は、ペリゴールあたりで細長い丘につながり、それはパリ・ポルド

ー間の国道のところで、三つの景色のいい谷にぶちどられた一種の岬形となっておわっている。この町が宗教戦争のころどんなに重要であった

かは、町に残っている城壁、城門、この岩山の頂きにつくられた城塞の遺跡などを見れば歴然である。その位置が位置だけに、かつてはカトリック派カルヴァン派どちらにとつて



も貴重な戦略地点だった。こうした過去の強みが今日では、かえってこの町の弱みとなっている。城壁と岩山の急勾配のためにシヤラント川の岸辺へむかつて発展できず、町はひどく不活発な状態に陥ってしまった。(後略)

スケッチでは、自然に恵まれた田舎町といったところである。コワンテ兄弟、そしてセシャル父子、これからどんな日々が待ち構えているのだろうか。

バルザックは、こうした一連の小説群を総括して「人間喜劇」と呼んでいるが、そこには小さかしくごめく人間たちのエゴや、善と悪のせめぎあい

が、みごとに展開されている。それにしても、ふつつの歴史だけでは捉えることのできない、たとえば印刷産業史の側面はもとより、十九世紀フランスにおける生活・風俗史という面から考えても、きわめて貴重な資料

になりえていることは、すでにのべたとおりである。

ひつき よう、これまでは単なる小説という虚構の世界の

できごとと思われてきたことがらが、じつは歴史の一部分を実証するものとして、改めて見つめ直されるきっかけとなったのではないかと、読めば読むほど、よみがえってくるのである。

したがって角度を変えてみつめると、バルザックという作家は、単なる作家ではないことが、再認識できる

である。

おおさか探索

# 通天閣

ご紹介します。

## ■通天閣の名付け親は？

新世界を開発し、通天閣を建設したのは大阪土地建物(株)という会社。その社長であり、当時の大阪商工会議所会長を務めていた土井通夫の「通」を取り、「天に通じる高い建物」と言う意味を付けられていた。…と言うのが定説。1985年(昭和60年)に「通天閣30年史」編集企画を知った大阪市住吉区在住の藤沢氏が「自分の祖父が名付けた」と名乗りを上げた。その人は、明治時代に政治の舞台で活躍していた高名な儒学者「藤沢南岳」。漢籍への精通は当代随一といわれ、あちこちから命名の依頼を受けていたらしい。いわば当時の名付けのプロだったようだ。このことがはっきりして、初代通天閣が完成しからの謎が75年ぶりに解明した。

## ■通天閣の設計者は誰？

今年で46歳になる通天閣と44歳の東京タワー。なんと、設計者が同じ人だったのです。既に故人となっていますが、その非凡さには驚かされます。

設計者：ないとう たちゅう内藤 多仲(1886～1970)  
出身：山梨県  
学歴：26歳で早稲田大学の教授に就任  
代表作：東京タワー、通天閣、旧歌舞伎座



## ～初代通天閣から2代目への歩み～

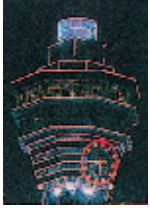
初代通天閣は、今から90年も前の明治45年(1912年)7月。当時の大阪市民をアッとさせた一大歓楽街「新世界」の誕生とその新世界の注目を集めたのが4万坪を越える娯楽遊園地ルナパークと東洋一の高さ(64m)を誇る通天閣です。天に通ずる高い建物という事で「通天閣」と命名され、パリのエッフェル塔と凱旋門を模した破天荒なイメージで人気を集めました。

ところが昭和18年火災に遭い、鉄材供出の名のもとに解体され姿を消しました。戦後灯が消えた新世界では、地元の市民から通天閣再建の声が起こり、昭和31年(1956年)10月28日に待望の2代目通天閣が開業しました。高さ103m、円形エレベーターを備えた近代的な姿で、再び灯をともしました。



## てっぺん

気象台と通天閣を専用回路で結び簡単な色の組合せで明日の天気を知らせてくれる夜の空のシンボルとして親しまれています。



### 光による天気予報の見方

晴	晴時々曇	晴時々雨
曇	曇時々晴	曇時々雨
雨	雨時々晴	雨時々曇
晴後曇	曇後晴	曇後雨
晴後雨	曇後雨	雨後曇

## 5F展望台

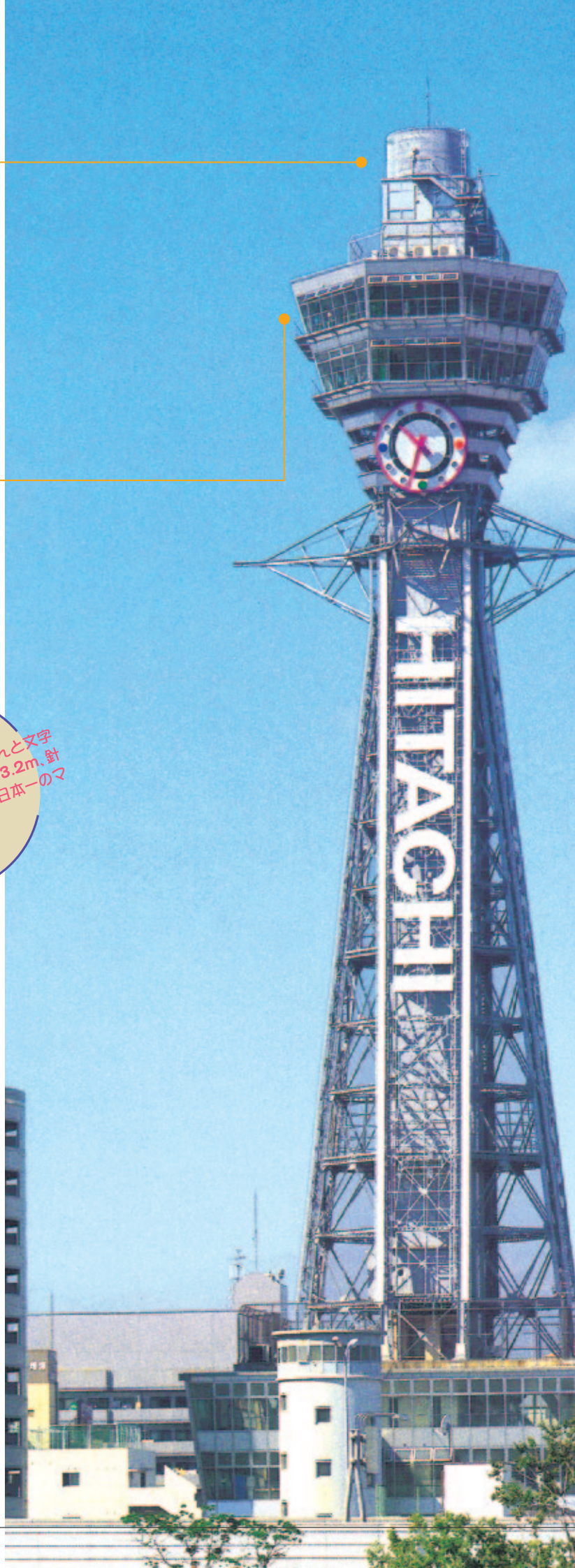
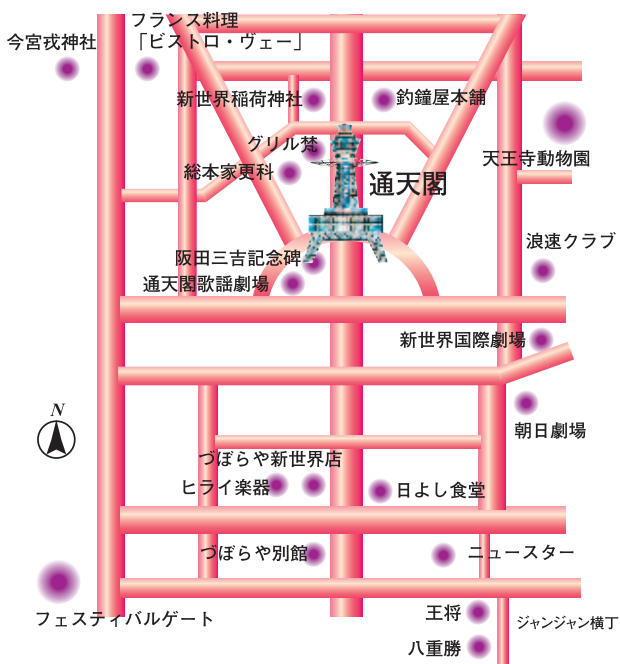
展望台で、まっさきに迎えてくれるのが幸運の神様ビリケン像。明治41年(1908年)アメリカの女流美術家が奇怪な神の姿を見て、造った像がビリケンさん。合格祈願・縁結びなどあらゆる願いを聞いて下さる「福の神」です。



### 通天閣三二知識

**大時計** 東面の大時計は、なんと文字盤の直径5.5m、長針の長さ3.2m、針の重さは1本30kgという日本一のマンモス時計です。

## 通天閣周辺マップ





# IGAS 2003

## International Graphic Arts Show

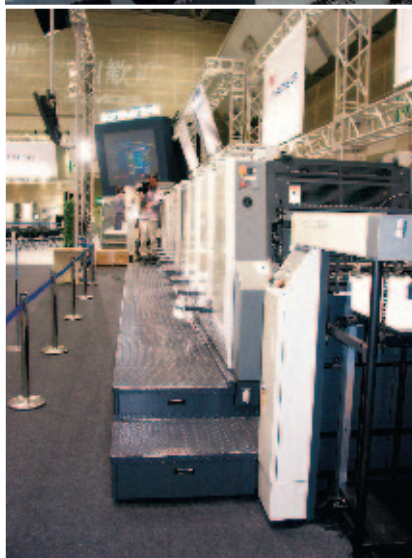
Towards the Future of the Print Media

IGAS・・・四年に一度開催される、アジア最大と言われる印刷機材展。十七度目の開催となる今回から格式が上がり、ドイツのdrupa、アメリカのPRINT、イギリスのPEXと肩を並べる国際展示会となった、言わば東京モーターショーみたいなもの。「International Graphic Arts Show」の頭文字を取ったもので「アイガス」と読みます。この「IGAS2003」が、ちょうど冷夏と言われた夏も過ぎ、空には秋の気配が



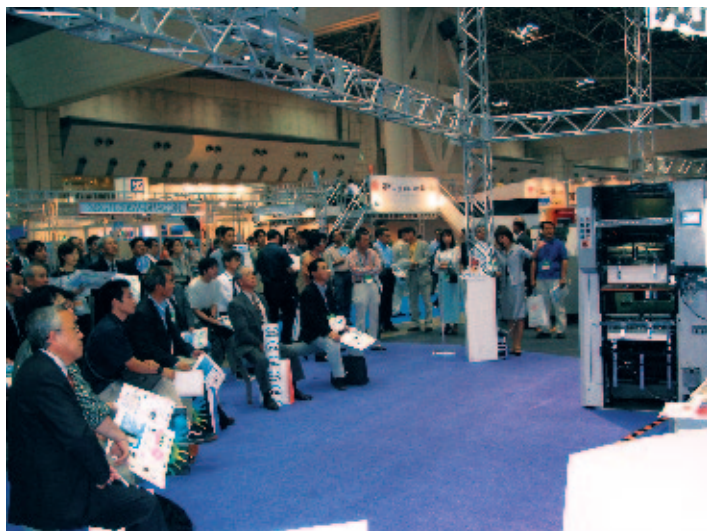
ハッキリと感じられる九月二十二日(月)～二十八日(日)まで、東京ビッグサイトで開催されました。今回は、この「IGAS2003」のレポートをしてみたいと思います。

場所は、前出のビッグサイト(ビッグサイト...でつかい敷地?なんて安易なネーミングだ!)。かの有名な(?)フジテレビがあるお台場近くに立地します。ちよつと目の前は海、ほんの少し足を伸ばせばDisney Seaも...。今回、私に課せられた使命は「IGAS」にて今後の業界の動向を探る事...観光したい衝動をグツと抑えて、ビッグサイトへ。

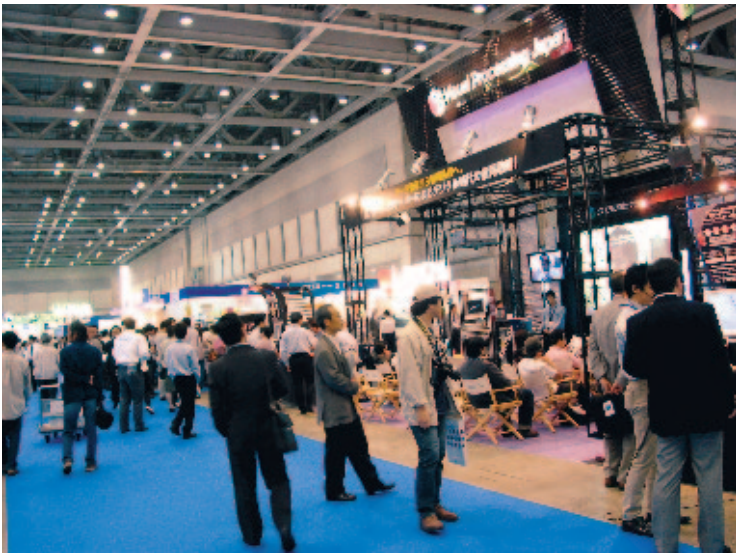


事前の情報では「入場するのに、一時間半待ち」とも聞いていたのですが、平日とあってか思いのほか人影はまばら。やや拍子抜けしたまま、いざ館内へ...

ビッグサイトの東館、西館の全ホールを使用し、出展企業数は約四〇〇社!「印刷」に係わる各メーカーのブースが並び、それぞれに出展されている機械・商品のプレゼンやデモが行われています。今回のテーマは「Towards the Future of the Print Media 未来のプリントメディアへ」。ところで、みなさんは「印刷の展示会」と聞くと、やや地味なイメージがありませんか?でも、IGASではステータスアップから照明・音響システムまで、コンサート会場かと思うほどの演出もあり、「うおお!」と言いたくなる華やかさです。周りを見渡すと海外、それも中国や東南アジアからの来場者が大勢見受けられました。聞いた話では、開催二日目には中国から三〇〇人位の見学者がバス六台で大挙押し寄せたと



のこと。国際的にも、ある意味中国ブームですが、勢いを感じると同時に見えない脅威も感じました。取り敢えずは、分かりやすい所で印刷機械メーカーのブースへ。従来からある印刷機の流れとしては、高機能と自動化。五～十色を一度に印刷したり、一度に両面カラー印刷が出来たり、またオペレーターの経験などには関係なく、基本的な印刷準備を整えられます。さすがに会場が広いとあって、大量の新聞・チラシなどを印刷するオフセット回転機(デカイン)です、これが。)も設置されていました。実際に稼働しているのを見る事は少ない為、デモは圧巻!毎分八〇〇回転であつという間に予定枚数終了。輪転印刷の市場は膨らみ続けていると、実にやかに囁かれています、ただただ納得するばかり。



輪転の最新技術では「シャフトレス」クルマで言えば、それぞれのタイヤにモーターを個別に取り付け、細かな制御をする事で効率よく動かそうという物で、これからのトレンドになるであろう技術。あと、今後浸透しそうなものがWebを利用して、クライアントと印刷現場を直接結び、リアルタイムでのデータのやり取りや校正の確認。デモの時は、東京、イギリス間での、「印刷直前確認」を演じていました。既に一部では、似たようなシステムが確立されていますが、現状の「お客様に校正を確認して頂く、持ち帰って生産現場へのサイン」の手間が省けます。近い将来、当たり前前の設備になるのではないのでしょうか。蛇足ですが、「IGAS2003」のプレゼンの場では、あ

ちらこちらで日本語に加え「英語」は元より、「中国語」「韓国語」の同時通訳や説明板が目につきました。実際に中国や韓国からの出展も多く、「国際化」と言うよりはアジアの「中心」が、既に移行しつつあるのを肌で感じる機会となりました。

あと、家庭用のインクジェットプリンターの業務版と言った感じで、将来的に印刷の一翼を担うであろう「オンデマンド印刷機」は、着実に進歩しています。従来はいろいろと制約が多かったのですが、印刷スピード・印刷用紙・印刷品質…どれもオフセット印刷にもう少しのレベルにまで近づいて来ました。やや難点を上げれば、まだ価格が高い事と用紙サイズがまだ小さいかな？ドットメーターの、とある最新型オンデマンド機は一説には七〇〇万円とも！普及するには、少々お高いですね…。

制作&プリプレス関連に目を向けると、従来のポストスクリプト出力からPDFを中心としたワークフローへの転換期。中心となるDTP(リップ)と呼ばれる人間で言えば脳となる部分のネーミングは各社凝っています。「Pinerogy(プリナジー)」「MetaDimension(メタディメンジョン)」「True flow(トゥールフロー)」などなど…。また、問題点も残しているのが現状で、もう少し時間が掛かりそうです。同時に、印刷時の品質に影響する「スクリーニング」と呼ばれる部分も、より描写力を向上さ

せた製品を各社出品していました。端的に言えば「より本物に近付ける」と言ったところでしょうか？

また「MacintoshのOS Xによる「In Design」への移行がより進むであろう雰囲気。そして目立つのが「CIP4/JDF」の文字。「CIP4」とは…「The Integration of Processes in Prepress, Press and Post press」の略…「苦しい！明らかに、業界がやや強引に略した感じがあります(笑)。これを日本語に言い換えると、またややこしく「製版・印刷・印刷後加工における工程の統合のための、国際的協同組合」となります。現在は生産ラインの標準化・効率化を目的とした「CIP3」で動いています。が、「CIP4」はレベルが上がり「MIS(経営情報)」と生産ワーク

フロアデータをリンクさせるシステムで、「万能電子指図書」と言ったところ。簡単に言えば「JDF(Job Definition Format)」と呼ばれるフォーマットに様々な情報を入れる事により、例えばCIP3と同じく印刷時のインクプリセットデータや断裁時の仕上げデータなどを付加出来る事は当然として、現在開発中らしいのですが、顧客管理や見積りデータ・受発注データを付加する事も考えられており、運用出来れば今まで以上に確実かつ容易な工程管理が可能となるようです。業界外の方には「何のことがサッパリ…」だと思えますが、よりデジタル化が進むという事。一つの仕事に関する情報が、何時でも・誰でも・どこでも同じ様に共有できるという事(内容にもよりますが)です。



見終わっての感想は、前回の「IGAS2001」で既に各社のコンセプトが提唱されていたので、一部を除いて今回はプロトタイプと言うより市販モデルお披露目の印象が強く、正直なところテーマの様な目新しさには欠けました。ただ、来年ドイツで行なわれる「drupa2004」では、また何らかの新たな方向性が示唆されるかも知れません。いずれにせよ、技術革新の波に取り残される事無く、また新しい技術に見合った業務形態も見据えていかなければならないと感じました。…と締めくくりながら、ビッグサイトから見たお台場の風景と帰りに買った草加せんべいの味を思い出したのでした。

共同精版印刷株式会社  
工場次長 岩藤民也



地域と  
ボランティア

特定非営利活動(NPO)法人

なら・観光ボランティアガイドの会

# 「朱雀」



みなさん、全国の観光地で旅行会社のガイドさんでもない普通の方たちがガイドされている姿を見られたことがありますか？さまざまな観光地では観光ボランティアとして地元の方が活躍されています。

多くの歴史的文化財を有し、日本だけでなく世界各国からも観光客を迎える奈良にもボランティアガイドとして活動されている団体があります。その中でも今回は、特定非営利活動(NPO)法人「なら・観光ボランティアガイドの会」「朱雀」さんにお話を伺いました。「朱雀」は奈良の歴史・文化・伝統を愛し、観光客に紹介することで地域社会の発展に貢献されています。

## What's「朱雀」?

奈良を愛する「なら大好き人間」が奈良の良さをもっと多くの人に知ってもらいたいという思いで、平成九年七月に結成(平成十四年四月にNPO法人格を取得)。「奈良に来てよかった」「もう一度奈良へ行きたい」と思っていただけのように「きめこまやかなガイド」をキーワードに活動されています。

主な活動内容

一般ガイド(少人数から団体まで) 平城宮跡の「朱雀門」・「東院庭園」での定点ガイド(土日祝のみ) 小・中学生の修学旅行ガイド 「なら奈良館」での常駐ガイド なら燈花会のガイド 奈良市立小学校五年生の世界遺産校外学習時のガイド

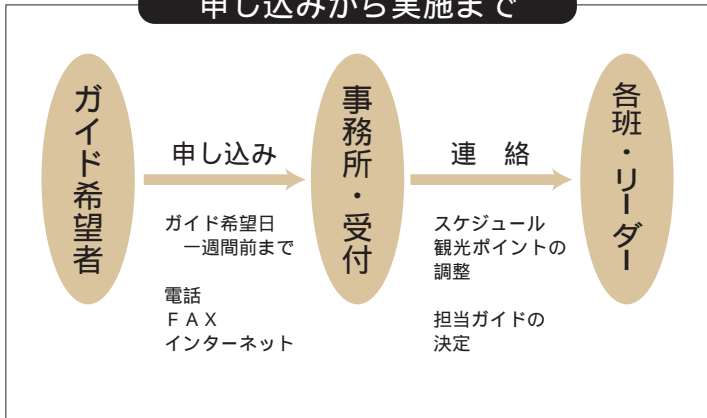


## 「朱雀」のしくみ

一五人(平成十四年十二月現在)もの人から成り立ち、定年退職された方や主婦の方が多くを占めているそうです。普段は一二人が電話受付として事務所におられるだけで、全員揃うことはなかなかないのですが、全会員が出席する月一回の定例会を行うことで意思疎通されています。

運営面では理事長を始めとして企画部・運営部・業務部・広報部・情報メディア部・会計部・事務局・会計監査の各役員方、活動面では全会員が〇班に分かれ、各リーダーを中心に組織されています。

## 申し込みから実施まで



# 観光ガイドエリア

## 奈良公園周辺コース

大伽藍が立ち並び、鹿が群れ遊ぶ不思議空間  
...東大寺、興福寺、春日大社など

## ならまち探訪

江戸・明治時代の町並みの中で、神秘さと新しい息吹を感じさせる町  
...元興寺、三ノ博物館、中将姫伝説の寺々

## 文学散歩「高畑界限」

明治より文化人が集い、今なお古都奈良の静けさを色濃く残す風景  
...志賀直哉旧居、奈良市写真美術館、新薬師寺など

## 平城宮跡から古墳群へ

万葉人が宴や散策を楽しんだ宮跡に古代のロマンを偲ぶ  
...朱雀門、神功皇后陵はじめ多くの古墳群、秋篠寺など

## 佐保、佐紀路古寺巡り

ならやま丘陵に並び古寺に、たおやかな宮人のイメージが重なる  
...法華寺、海龍王寺、不退寺、幸福院など

## 西の京散策

田園風景の中で、創建当時の姿をとどめ、天平への想いを誘う寺々  
...西大寺、唐招提寺、薬師寺など

その他のコースも相談に応じて、可能だとのことです。



観光シーズンである春・秋に予約が集中することも影響しますが、多い人では月に十五回もガイドされることもあります。

広報担当の稲原勝さんからお話を聞きました。  
「今は知名度をあげることに力を入れています」と稲原さん。  
申込書を自治会・公民館・奈良周辺ホテル・駅周辺などに設置されているのですが、申し込まれるほとんどが「友人・知人に聞いた」という人だそうです。「ホームページ上での申し込みは、これから力を入れたいと考えていますが、今の所、まだまだありません。それでも活動内容の一つである「奈良市立小学校五年生の世界遺産校外学習時のガイド」は初めは四丁五校のみでしたが、評判が評判を呼び、今では三〇校以上から依頼を受けられており、

SUZAKU

特定非営利活動法人  
なら・観光ボランティアガイドの会「朱雀」

### お問い合わせ

〒630-8215 奈良市東向中町28  
近鉄奈良駅ビル4階 なら奈良館内  
TEL/FAX 0742-27-9889  
URL <http://www.e-suzaku.net>  
E-Mail [suzaku97@m3.kcn.ne.jp](mailto:suzaku97@m3.kcn.ne.jp)

ガイドは無料ですが、案内中に必要な費用（移動中の交通費や食事代など）は観光客のご負担になります。

「朱雀」のみなさんの活動ぶりは着実に評価されているようです。  
「定点ガイドなどはガイドの方から声をかけないと案内できず、押しすぎると逆に嫌がられてしまうので、そこが難しいです。」（無料ですが）有料かもしれない...と敬遠されることがありますが「と厳しい場面に出くわすことも、やはり一日中観光ガイドするので、健康第一でなければなりません。私は単純に大変だなあと感じたのですが、稲原さんは違いました。お話をしている間に「好きだからできるんです」とも印象的な言葉です。稲原さん達は、してあげる、ではなく、させてもらっているという基本的考えがあるのです。とはいえ、ボランティアは始めるきっかけがなかなか難しいことだと思えます。今日も「朱雀」のシンボルカラーである黄色のユニフォームを着ている方がガイドされているかもしれせん。見かければぜひ温かい一言をかけたくなります。奈良好きの一人として...  
(営業部 野村早香)

# 「除夜の鐘」

「百八」という数から何を連想されますか。年配の方は「煩惱」とお答えになるでしょう。若い人には「えっ、尺八？」などとうそぶかれ、うまく逃げられそうですが、「お坊さんの持っている念珠」「除夜の鐘」といった答えは返ってくるでしょうか。

煩惱とは、私たちの心身の安らぎを乱す状態、感情や意志の正しくない働きをいう、と辞書にあります。そうした悩みが多いことを昔の人は「百八煩惱」と表してきました。

百八という数をお坊さんに伺いました。「般若心経で知られるように、私たちの眼耳鼻舌身意の六つの感覚器官が、色声香味触法という六つの対象をとらえるとき、好・悪・平（非好非悪）の三があり十八となる。その一つ一つに染と浄があり計三十六。これにまたそれぞれ過去・現在・未来の三があつて、合計百八の煩惱がある。」

「むつかしくて判りません」「そうでしょう。だから百八とは、数多くのという意味に理解して、要は煩惱を少しでも消すことに努めることです」

「（もっともインドでは、仏教以前のバラモン教の聖典にも、百八という数がよく出てくるが、もちろん意味は別）。

ちなみに百八の念珠はお坊さんが百

遍、千遍とくり返す礼拝や念仏の時、数を気にせず専念するために爪繰る。一巡すれば百遍、八遍は粗雑であったかも知れない時の補欠だそつです。

除夜の鐘の百八には、一年の十二月、二十四節気、および七十二候を合せた数とする説もあるそつですが、やはり百八煩惱を鐘の音によって浄める、という意味に解した方がしっくりくるようす。

『平家物語』には「祇園精舎の鐘の声」とありますが、インドには金属製の鐘は無かつたといわれ、梵鐘は中国から始まつたようす。中国では三千年前から青銅器が発達し、祭祀のときの楽器類の一つが、仏教の梵鐘となつたといひます。

寺院の鐘は時を知らせ、衆僧を集めるために設置されました。梵鐘の「梵」は神聖・清浄を意味するそつです。その鐘の音が、私たち衆生を迷いから目覚めさせ、仏道に帰依させ、極楽往生へと導いてくれると説かれ、さらには鐘そのものに威力があると信じられるようになりました。

鐘の頂部にある「竜頭」（吊る装置）は二頭の竜が背中合せに對置し、中央上部に火焰宝珠が配されています。その姿が靈力や竜神と関連して、各地に色々な伝承を生みましました。

梵鐘は仏教伝来とともにわが国に伝わり、現存最古のものは京都妙心寺の鐘で、六九八年（文武天皇二年）の作といわれます。當麻寺の鐘も無銘ながらこの頃の製作と推定されています。興味深いことに、中宮寺に伝わる「天寿国繡帳」残欠にも鐘樓に吊られた梵鐘を撞く僧の姿が見られます。

梵鐘の大まかな時代判別の目安は、撞木を受けて音を発する撞座にあります。平安中期以前のものは、鐘を吊る竜頭の長軸と直角の位置に撞座があり、それ以後のものは竜頭長軸線上にあり、古式・新式と呼び分けています。また撞座の位置が古いものほど高く、奈良時代では鐘身の下から三七七%のところ、鎌倉時代では下から二二三%、その後は二二%前後の位置で定着しているそつです。

「東大寺の大鐘」は、大仏殿東方の高台にあり、鐘は天平勝宝三（七五一年）十二月に鑄造されたが失敗、改めて翌四年正月に下型を造り三月に鑄造、四月八日に孝謙天皇が行幸して鐘を懸けたといひます。



重量は二六・三トン、口径二七〇・八cm、鐘身の高さ三〇二・五cm、鐘身の下から一〇九・〇cmのところ、径約五〇cmの撞座をつけた文字通りの巨鐘で、低い音色と長い余韻はまさに荘嚴です。

室町時代の「南都八景」にも、その第一に東大寺鐘をあげています。

いまの鐘樓は重源上人のあと第二代勸進となつた宋西が建保三（一一一五年）年までの十年間に創建したもので、技術の粋をこらした建築法は、後世の鐘樓の範とされてきました。

興福寺国宝館の觀禪院伝来の梵鐘は、神龜四（七二七）年の銘をもち、天平時代の風格ある基準的作例として最も価値が高いとされます（興福寺国宝館蔵）興福寺は享保二（一七一七）年の火災でまたもや主要伽藍を失いますが、西国三十三觀音靈場で知られる南円堂は、寛政元（一七八九）年に再建されました。菩提院大御堂に懸る梵鐘は永享八（一四三六）年に造られたものです。



大湯屋の南、三条通りを隔てたところにある菩提院は、俗に大御堂あるいは十三鐘と呼ばれてきました。御堂は

天正八（一五八〇）年の建物といわれます。同院の鐘は七つと六つの間（七ツ半＝五時）に撞かれたことから、七と六を合して十三鐘と呼ばれたといえます。それがいつしか、十三才の三作という少年が、春日社の神鹿を殺した科で、石子詰の刑に処せられたからという伝説に入れかわったようです。

薬師寺の鐘は白鳳伽藍の復興に伴って古様で新造されました。それまでの天平時代の梵鐘は大宝蔵殿に収蔵されています。享禄の火災で焼損はなはだしく大きな裂傷があるため、西の京の「破れ鐘」とよばれ、毎年修一会花会式の時にのみ撞かれました。百濟国王から献ぜられた梵鐘が天延元（九六三）年に焼亡し、長保五（一〇〇三）年に興福寺別院の建法寺の鐘を曳いてきたものといわれます。鐘身一五七・五cm、口径一三一・五cm、東大寺大鐘の約半分で、鐘身に比して口径が大きく、天平盛期の様式ですが、口端から鐘身にかけて九五cmにわたる縦の亀裂が入ってしまったのが惜しまれます。

法隆寺には西院・東院にそれぞれ鐘楼があり、西院の鐘楼は平安時代の楼造りの唯一の遺構で、梵鐘も鐘楼が建った時に造られたとみられ、延長三（九二五）年に講堂とともに焼失したあと、寛仁四（一〇二〇）年頃までに出来たと推定されています。鐘身一三二cmに比して口径が一八・二cmと大きく、雄大な巨鐘です。

東院の鐘は鐘身一一・八cm、口径一〇五・二cmで、口径の割に丈が高く見える天平時代の端正な作です。追刻から、かつて中宮寺にあったもので、のちに東院鐘楼（鎌倉初期）に移されたものといわれます。鐘楼は袴腰付の

最古例として重視されています。



唐招提寺の梵鐘は平安前期の数少ない貴重な遺例といわれます。「南都左京 唐招提寺」の線刻がありますが、右京を誤って左京としています。鐘楼は後世転用古材で建てられました。



西大寺鐘楼は明治二（一八六九）年に兵庫東多田院から移建されたといえます。梵鐘には「正保二年三月吉辰西大寺」(一六四五)の刻銘があるそうです。



奈良の寺々のごく一部の梵鐘をめくってみました。長谷寺や栄山寺の梵鐘もよく知られています。現今でも本堂

### 年末の主な除夜の鐘情報

寺名	鐘情報
東大寺	天平の大鐘(国宝)を八人一組でつく。23時整理券配布。元巨の0時からつく。
興福寺	南円堂と菩提院大御堂の二カ所。23時先着百名に整理券配布。23時半からつく。
薬師寺	22時頃から受付。23時30分五人一組でつく。写経者が優先される。お餅の接待あり。
唐招提寺	23時15分頃から整理券配布、先着百八名に。
西大寺	23時50分頃から順番に参加者全員がつける。愛染堂前で福寿酒がふるまわれる。
帯解寺	23時30分、参加者全員が順番につくことができる。参加者に福酒がふるまわれる。
松尾寺	23時「やくよけ除夜祭」の後、先着百八名の一般参加者が厄除の鐘をつく。その後参加者全員でつく。先着千名に「御筆」を授与。
信貴山朝護孫子寺	0時〜2時 希望者はつくことができるが、人数に制限あり。(百八名)
室生寺	0時 参加者全員が順番につく。奥の院で先着三百人に絵馬か土鈴どちらかを無料進呈。御神酒、甘酒がふるまわれる。
飛鳥寺	23時30分 最初は僧侶がつき、その後は参加者全員でつく。シヨウガ湯と福酒の接待あり。
長谷寺	23時 僧侶がまず百八つく。参拝者に本堂前付近で福酒の接待。
壱阪寺	23時45分 最初は僧侶がつき、その後は参加者全員でつく。雑煮の接待あり。

が整備されると、次いで建てられるのは鐘楼のようです。おそらく朝夕の鐘の音が、人々に安堵感を与え、それによる教化が意識されるからでしょう。除夜の鐘といえはかつては家々で静かに聴くのが習いでした。最近では新聞やタウン紙に「除夜の鐘がつける寺」といった記事もみられ、参加する人が増えて、寺もそれを歓迎しているようです。古寺大寺でなくとも近在の寺に足を運ぶのは如何でしょう。一年に一夜しかない「大つこもり」、大切さが増しているようです。

(十月末の情報ですので、詳細は各寺にご確認下さい。)

命  
が吹き込まれる

KYODO SEIHAN PRINTING  
**KSP**

紙  
が  
でき